

# 平成 30 年度 大野中学校区 小中連携教育について



大野地区小中連携教育推進会議

## 1 小中連携教育の目的

知・徳・体の調和を重視する教育をとおして児童生徒の成長を支えていくため、大野地区小中学校間の密接な連携によって、学校間の円滑な接続を図る。

## 2 小中連携教育の意義

### (1) 学力向上としての意義

学習には、育てたい力や教育内容に系統性があることから、指導の継続性を生かした取組は、子どもたちの学習意欲の喚起や学力の定着に大きく関与すると考えられる。したがって、9年間の学びを一体のものにとらえ、発達段階を踏まえた一貫性のある継続的な指導を行う

### (2) 生徒指導における意義

思春期を迎える小学生にとって、6年間の小学校生活を経て中学校へ進学するということは、ある種の異なった文化をもつところに行くことであり、不安感を抱く子どももいると考えられる。また、この状況は児童だけでなく、その保護者についてもいえることである。こうしたいわゆる「中1ギャップ」により、できるだけ不適應の状況が起きないように、小学校高学年と中学校との間の段差を解消し、接続を円滑に行うことを目的におく。

### (3) それぞれの教職員間における教育活動の相互理解としての意義

様々な連携教育の可能性を探る中で、小・中学校の教員が互いの壁を越えて相手の取組を知り理解することそのものに、連携の意義を見出す。

## 3 小中連携教育で得られると考えられる教育効果

### (1) 教師が9年間の教育課程の構造を見通した授業を構想する力量を高めることができる。

→ 小学校では、その学習内容が中学校でどのように扱われ発展していくのかを見通した上で、基礎となるものを具体的かつ確実に指導することができる。また、中学校では同じ内容について、小学校でどこまでどのように指導されているのかを知った上で、効果的な授業を組み立てていくことができる。

### (2) 小学校と中学校の教師の協働による生徒指導（生活指導）体制の構築が容易になり、長期的な視点で生きる力の育成を図ることができる。

### (3) 小中学校それぞれに内在する固有の学校文化・風土を融合させ新しい文化を創造するとともに、中学校入学時の生徒の不安を解消できる。

### (4) 9年間を見通し、子どもの発育と学習の連続性を重視した教育を行い、義務教育を修了するにふさわしい学力と人間関係力の育成を図ることができる。

#### 4 小中連携のイメージ (H30 版)

### 大野地区小・中学校の目指す児童生徒像及び連携の柱

○進んで学び、確かな学力を身に付ける児童生徒

- ・小、中学校が連携して、基礎基本の定着を図り、確かな学力の育成に努める。
- ・学ぶ意欲を育てるために、小、中学校が連携して学び方を身に付けさせるとともに、主体的に学ぶ児童生徒の育成に努める。

9年間の一貫した教育計画づくり (小中一貫)

9年間を見通した「学習習慣」「生活習慣」の確立

小中の「**学習**」に係る接続のあり方  
**小中の「教育課程」の接続のあり方**

小中の「**体力向上**」に係る接続のあり方

9年間を見通した生徒指導のあり方

※9年間を見通した共通目標の設定

9年間を見通した各領域における発達段階ごとの基本構想  
到達目標と具体的な取組内容等の洗い出しと実践

大野地区小中連携教育推進協議会

各校教職員による学校間連携業務の推進

教師間の連携

- 相互に授業を参観
- 中学校教員による出前授業
- 小中教員による交流の場を設ける (合同研修会・互助会レク) など

児童生徒間の連携

- 長期休業中の小学校学習サポートへの中学生の派遣
- 中学校の部活への体験入部
- 生徒会・児童会の交流
- 小学6年生と中学1・2年生の交流の機会を設ける など

## 5 大野地区小中連携教育推進協議会の立ち上げ

各校それぞれが抱える独自の学校課題を共有するとともに、校区内に横たわる共通の課題解決に向けて、9年間の継続的な指導と支援を実施していく。

### (1) 連携主体

萩野小学校、島川小学校、大野小学校、市渡小学校及び大野中学校

①構成 大野地区小中学校に在籍する全教職員が小中連携に主体的に取り組む。

②事務局 大野地区地域連携協議会（大野地区子どもを健やかに育てる会）の事務局所在以外の学校が担当する。

### ③役員

会 長：事務局所在校の校長とする。

副会長：事務局所在校以外の校長とする。

事務局長：事務局所在校の教頭とする。

事務局次長：事務局所在校以外の教頭とする。

事務局員：各校の主幹教諭と連携担当教諭とする。

### ④組織

**事務局会議（小中連携教育推進会議）**：事務局長・事務局次長・事務局員で構成する。

※第1回目の会議には会長・副会長、各委員も参加する。

第1回 5月21日（月）16:00～ 計画立案

第2回 10月30日（火）16:00～ 進捗状況の確認

第3回 2月25日（月）16:00～ 成果と課題の洗い出し、次年度に向けての計画策定

※情報交流のため、教頭を中心に教頭会終了後小中連携に係る打ち合わせを持つ。

### **学力向上委員会**

○各校の教務主任・各校の研究部長（研究担当教諭）と事務局の学力向上担当で構成する。

#### ○活動内容

- ・全国学力・学習状況調査経年変化等の分析結果を基にした、9年間の見通しを持った学力向上について検討する。
- ・中1ギャップの解消をめざし、学びの連続性を保障するための取組（9年間を見通した学習シラバスの作成、乗り入れ授業や家庭学習の取組、学習規律の共通化等）

### **体力向上委員会**

○各校の保健体育担当教諭・養護教諭と事務局の体力担当で構成する。

#### ○活動内容

- ・全国体力・運動能力・運動習慣等調査の結果分析を基に、9年間を見通した体力向上について検討する。
- ・中学校への部活動体験入部や部活動担当者による小学生への指導等の取組

### **生徒指導委員会**

○各校の生徒指導主事と事務局の担当者と構成する。

※大野地区地域連携協議会との連携を行う。

○活動内容

- ・全国学力・学習状況調査児童生徒質問紙の分析結果等を基にした、家庭での生活実態を交流する。
- ・生徒指導の機能を生かした授業改善について交流する。
- ・アウトメディアについて、9年間を見通した働きかけを行う。
- ・各校の児童生徒の実態について交流を図る。

※各専門委員は、小中連携教育推進会議に参加し、会議終了後委員会を開催し、計画立案・進捗状況の確認・成果と課題の洗い出し等を行う。

※事務局の輪番について

	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度	平成33年度
大野地区小中連携教育推進協議会	大野中	大野小	萩野小 島川小	市渡小	大野中
大野地区地域連携協議会	市渡小	大野中	大野小	島川小	萩野小
北斗市教育研究所	—	—	—	萩野小	島川小
北斗市PTA連合会	—	大野中	島川小	—	—

①大野地区地域連携協議会と重ならないよう、さらには、市教研・市P連事務局と極力重ならないように配慮する。

②学校規模から、萩野小学校と島川小学校は合同で事務局をもつ。

## 6 これまでの取組

### (1) 平成27年度取組

○オール大野「学力向上アクションプラン H27」に基づく取組

- ・大野地区学力向上子どもビジョンの策定
- ・年3回の家庭学習強調週間
- ・ノーゲーム日の取組
- ・「家庭学習の手引き」「学習のきまり」の交流

## (2) 平成28年度の取組

○オール大野「学力向上アクションプラン H28」の策定と取組

○大野地区児童生徒の学力の把握により、課題を「見つける」取組

- ・地区内の小中学校で、全国学力・学習状況調査結果の経年変化や、中学校の実力テストの出身小学校ごとの結果の還元等で、校区内の児童生徒の学力の状況を把握し、授業改善につなげる。

○9年間を見通し、一貫した授業における指導過程（「目標・学習課題」提示⇒子どもが考え自ら表現する時間と場の設定⇒教師が「まとめ」子どもが振り返る）や学習規律など、小中一貫して「そろえる」取組。

○児童生徒が安心・安全な学校生活を送ることができるよう、交通安全の取組やあいさつなど、生活指導面で「そろえる」取組。

※大野地区子どもを健やかに育てる会との連携

○学習習慣の確立を「徹底して」取り組む

①中学校の家庭学習ノートの取組を母体に、毎日家庭学習に取り組むことによる学習習慣の確立。

②小中連携大野地区家庭学習強調週間の取組

- ・共通取組事項の確認と実施
- ・生活リズムチェックシートの活用
- ・PTAとの連携・・・各校の校長とPTA会長連名で、保護者向け文書を作成・配付
- ・終了後は各校の成果と課題を洗い出し、還元

第1回 6月26日（日）～ 7月2日（土）

第2回 9月14日（水）～9月24日（土）

第3回 2月24日（金）～3月 2日（木）

③新入生がんばりプリントの継続

○小中連携授業交流による「見せる」取組

①小中学校ともに交流授業を用意し、授業を見合い、その成果を還元。

- ・今年度は、授業参観等を活用するが、次年度以降は学校ごとに交流授業を1教科用意し、事後研を実施する。

②小中の授業乗り入れの取組

- ・中学校教員による小学校への出前授業  
教科・部活動等

③全道へき地複式研究大会に合わせて複式校の授業を参観することで授業改善につなげる取組

- ・会場校の島川小学校での授業を小中連携として参観し、参観後の成果を大野地区小中学校全体で還元。

○小中連携研修会実施・・・会場は大野中学校を予定

分科会（グループ別協議）により、9年間の学びの連続性を意識した取組を中心に協議する。

※平成29年度実施に向けて、具体的な方策を立てる。

※今年度は、プレ研修会との位置付けで、大野小学校道徳教育指定校として実施する講演会に参加を呼び掛ける。

○大野地区「毎月第1・第3日曜日はノーゲームデイ」「携帯電話・スマートフォン・インターネット接続可能機器は、午後9時になったら保護者に預ける」により、子どもの生活を「守る」取組

- ・共通取組事項の確認と実施
- ・PTAとの連携
- ・生活に関するアンケートの実施による児童生徒の実態把握
- ・大野地区子どもを健やかに育てる会との連携

※生徒会・児童会による「携帯電話・スマートフォン」のルールづくりとその啓発

(2) 平成29年度の取組

○オール大野「学力向上アクションプラン H29」の策定と取組

○大野地区児童生徒の学力の把握により、課題を「見つける」取組

→学力向上委員会を中心に

- ・地区内の小中学校で、全国学力・学習状況調査結果の経年変化や、中学校の実力テストの出身小学校ごとの結果の還元等で、校区内の児童生徒の学力の状況を把握し、授業改善につなげる。

○9年間を見通し、一貫した授業における指導過程（「目標・学習課題」提示⇒子どもが考え自ら表現する時間と場の設定⇒教師が「まとめ」子どもが振り返る）や学習規律など、小中一貫して「そろえる」取組。

→学力向上委員会を中心に

○児童生徒が安心・安全な学校生活を送ることができるよう、交通安全の取組やあいさつなど、生活指導面で「そろえる」取組。

→生徒指導委員会を中心に

※大野地区子どもを健やかに育てる会との連携

○学習習慣の確立を「徹底して」取り組む

→事務局・学力向上委員会を中心に

①中学校の家庭学習ノートの取組を母体に、毎日家庭学習に取り組むことによる学習習慣の確立。

②小中連携大野地区家庭学習強調週間の取組

・共通取組事項の確認と実施

・生活リズムチェックシートの活用

・P T Aとの連携・・・各校の校長とP T A会長連名で、保護者向け文書を作成・配付

・終了後は各校の成果と課題を洗い出し、還元

第1回 6月27日(火)～7月3日(月)

第2回 9月28日(木)～10月4日(水)

第3回 2月21日(水)～2月27日(火)

③新入生がんばりプリントの継続

○小中連携授業交流による「見せる」取組

→事務局・学力向上委員会・体力向上委員会を中心に

①小中学校ともに交流授業を用意し、授業を見合い、その成果を還元。

・学校ごとに交流授業を1教科用意し、事後研を実施する。

②小中の授業乗り入れの取組

・中学校教員による小学校への出前授業

教科・部活動等

③長期休業中の学習サポートへの中学生の派遣の取組

④部活動体験入部、部活動顧問の小学校への技術指導等の派遣の取組

○小中連携研修会実施・・・会場は大野中学校

夏季休業中(7月27日(木)14:00～)実施

○大野地区「毎月第1・第3日曜日はノーゲームデー」「携帯電話・スマートフォン・インターネット接続可能機器は、午後9時になったら保護者に預ける」により、子どもの生活を「守る」取組

→生徒指導委員会を中心に

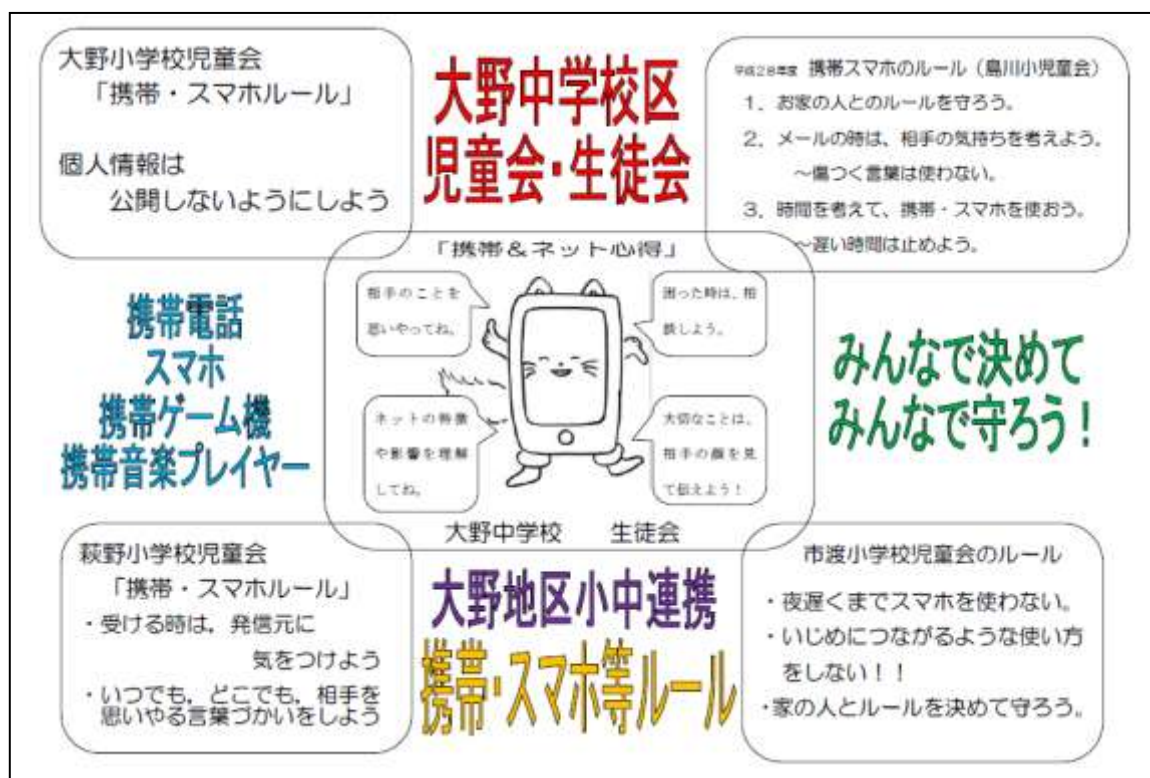
・共通取組事項の確認と実施



- ・ P T A との連携
- ・生活に関するアンケートの実施による児童生徒の実態把握
- ・大野地区地域連携協議会（子どもを健やかに育てる会）との連携

○生徒会・児童会の交流活動

平成28年度の「携帯電話・スマートフォン」ルール作りを切り口に、役員間の交流を図り、生徒が主体となって連携する体制を構築する。



○互助会レクの合同開催

大野地区内小中学校で互助会レクを合同開催し、教職員間の交流を行い、連携を密にする。

7 平成30年度の取組

- (1) オール大野「学力向上アクションプラン H30」の策定と取組
- (2) 大野地区児童生徒の学力の把握により、課題を「見つける」取組  
→**学力向上委員会を中心に**
  - ・地区内の小中学校で、全国学力・学習状況調査結果の経年変化や、中学校の実力テストの出身小学校ごとの結果の還元等で、校区内の児童生徒の学力の状況を把握し、授業改善につなげる。
- (3) 9年間を見通し、一貫した授業における指導過程（「目標・学習課題」提示⇒子ども

が考え自ら表現する時間と場の設定⇒教師が「まとめ」子どもが振り返る）や学習規律など、小中一貫して「そろえる」取組。

→**学力向上委員会を中心に**

※小中連携合同研修会での協議内容を生かす。

授業準備の中学校方式（各時間前に教科書などを準備）

筆箱の中身・テストの受け方・チャイム席の徹底・学習用具の必要な時以外の持ち帰り・敬語の使い方等

家庭学習と学習規律の統一について、小中で協議していくことと、保護者や地域へも積極的に情報発信し、協力を仰ぐ。

(4) 児童生徒が安心・安全な学校生活を送ることができるよう、交通安全の取組やあいさつなど、生活指導面で「そろえる」取組。

→**生徒指導委員会を中心に**

※大野地区地域連携協議会（子どもを健やかに育てる会）との連携

※小中連携合同研修会での協議内容を生かす。

チャイム席・礼の仕方・学習用具の準備・安全指導（自転車の乗り方等）  
携帯電話等の取扱い

(5) 生徒の心身の発達段階に応じて、9年間を見通した体力向上に向けた「そろえる」取組

→**体力向上委員会を中心に**

※小中連携合同研修会での協議内容（体育の授業前に3分間走を実施）を生かす。

(6) 学習習慣の確立を「徹底して」取り組む

→**事務局・学力向上委員会を中心に**

①中学校の家庭学習ノートを取組を母体に、毎日家庭学習に取り組むことによる学習習慣の確立。

②小中連携大野地区家庭学習強調週間の取組

- ・共通取組事項の確認と実施
- ・生活リズムチェックシートの活用

・PTAとの連携・・・各校の校長とPTA会長連名で、保護者向け文書を作成・配

大野地区  
**「学力向上」子どもビジョン**

一 **しっかり準備できる子ども**  
次の日の学習用具の準備と身のまわりの整理整頓を行い、学習環境を整えましょう。

二 **わかるまで学ぶ子ども**  
あきらめず、粘り強く取り組みましょう。

三 **毎日家庭学習する子ども**  
「継続は力」です。  
少しずつ毎日家庭学習をしましょう。

付

・終了後は各校の成果と課題を洗い出し、還元

第1回 6月28日(木)～7月4日(水)

第2回 9月27日(木)～10月3日(水)

第3回 2月15日(金)～2月21日(木)

1学期末テスト 7/4・5

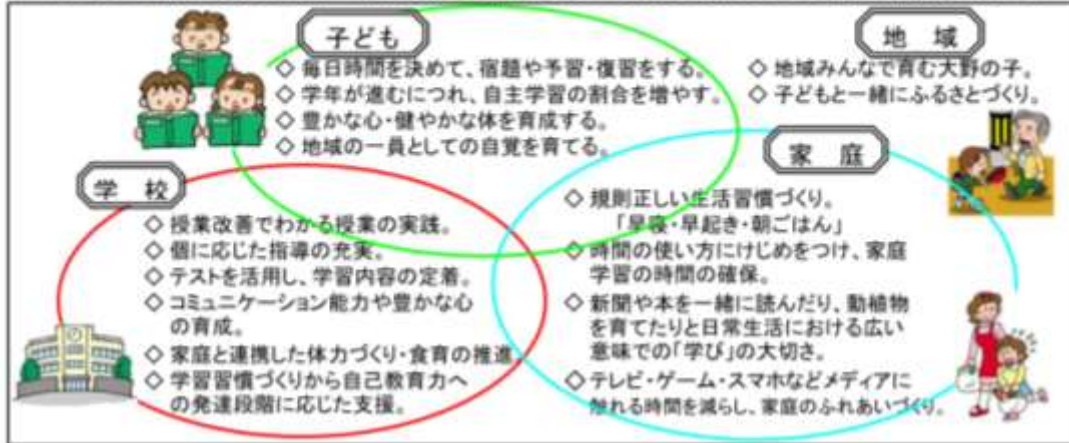
2学期中間テスト 10/4

学年末テスト 2/21・22

③新入生がんばりプリントの継続

大野地区 小中連携家庭学習の取組  
大野地区「学力向上」子どもビジョン

「しっかり準備できる子ども」「わかるまで学ぶ子ども」「毎日家庭学習する子ども」の育成をめざして



各学年における家庭学習での目標

学年	基礎学習重視→ 自己教育力重視	自主学習リスト	目標となるめやす	家の人のかかわり方		
1年 (10分 ～30分 程度)	基礎 学習 重視  (宿題)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・お手伝い</li> <li>・本読み(音読)</li> <li>・計算練習(親の問題)</li> <li>・絵日記</li> <li>・言葉集め</li> <li>・なわとび</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 宿題を復習の中心にする。</li> <li>○ 次の日の準備ができる。</li> <li>○ 自主学習は音読程度。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 学習習慣を身に付けさせる。(学習する場・姿勢・時間など)</li> <li>○ 学習内容を知り、積極的に関わる。</li> <li>○ 明日の用意は、自分でできるように支援する。</li> <li>○ その日の宿題の様子を確認する。(丁寧にできているか。)</li> </ul>		
2年 (10分 ～30分 程度)			<p style="text-align: center;">家庭学習ノートに取り組む</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 学習習慣が、身に付くように目をつける。</li> <li>○ 明日の用意や宿題など、自分でできるまで支援する。</li> <li>○ 宿題や自主学習は、必要に応じて確認する。(丁寧さと正確さをみる。)</li> </ul>		
3年 (40分 ～50分 程度)			<p style="text-align: center;">家庭学習ノートに取り組む</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 宿題を復習の中心とする。</li> <li>○ 目安となる時間内にできるように集中して行う。</li> <li>○ 学習習慣の確立を目指す。</li> <li>○ 自主学習の内容を幅広く行えるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 日常生活の中から、時間を意識させる。</li> <li>○ じっと見守る姿勢で支援する。</li> <li>○ こころで集中できる環境づくりに努める。(中学校進学を意識できているか。)</li> </ul>	
4年 (40分 ～50分 程度)			<p style="text-align: center;">家庭学習ノートに取り組む</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 積極的に復習を行う。</li> <li>○ 予習に積極的に取り組む。</li> <li>○ 自分なりの進路を踏まえた課題意識を持って、自主学習に取り組む。</li> <li>○ 進路希望に合わせて、自らの到達目標を設定するなど、能動的な学習活動を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ メリハリのある時間配分を意識させる。</li> <li>○ 進路選択に関わって、相談にのる。</li> <li>○ 進路目標等について十分にコミュニケーションを図るなど、学習意欲の喚起に努める。</li> </ul>	
5年 (60分 ～70分 程度)			自己 教育 力 重 視  (自主 学習)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日記</li> <li>・復習</li> <li>・予習</li> <li>・総合</li> <li>・各種検定</li> <li>・チャレンジテスト</li> <li>・全国学力調査の過去問題</li> </ul>	<p style="text-align: center;">家庭学習ノートの取組と充実を図る</p>	
6年 (60分 ～70分 程度)						
中学生  (90分～ 180分 以上)	<p style="text-align: center;">家庭学習ノートの取組と充実を図る</p>					

(7) 小中連携授業交流による「見せる」取組

→事務局・学力向上委員会・体力向上委員会を中心に

①小中学校ともに交流授業を用意し、授業を見合い、その成果を還元。

・学校ごとに交流授業を1教科用意し、事後研を実施する。

②小中の授業乗り入れの取組

・中学校教員による小学校への出前授業  
教科・部活動等

③長期休業中の学習サポートへの中学生の派遣の取組

④部活動体験入部、部活動顧問の小学校への技術指導等の派遣の取組

(8) 小中連携研修会実施・・・会場は大野小学校

**夏季休業中(7月26日(木)14:00～)予定**

(9) 大野地区「毎月第1・第3日曜日はノーゲームデイ」「携帯電話・スマートフォン・インターネット接続可能機器は、午後9時になったら保護者に預ける」により、子どもの生活を「守る」取組

→生徒指導委員会を中心に

・共通取組事項の確認と実施

・PTAとの連携

・生活に関するアンケートの実施による児童生徒の実態把握

・大野地区地域連携協議会(子どもを健やかに育てる会)との連携

(10) 生徒会・児童会の交流活動

生徒会・児童会役員間の交流を図り、生徒が主体となって連携する体制を構築する。

(11) 互助会レクの合同開催

大野地区内小中学校で互助会レクを合同開催し、教職員間の交流を行い、連携を密にする。